

連載20

そして音楽の旅は続く

敏腕プロデューサーのオファーなら 飛び込むべし!



私に再デビューのお声がけをくださったアルファミュージックと東芝EMIは当時、音楽業界の最大手企業でした。アルファミュージックは村井邦彦さんが設立され、荒井由実を発掘、ハイファイセット、YMO、吉田美奈子などを次々と世に送り出した音楽出版社です。私が契約をした時は二代目社長の大橋一枝さんがKEI MUSICと社名変更した頃で、そのあと再度アルファミュージックに社名が戻り、現在はCBSソニーの子会社になって存続しています。東芝EMIの邦楽セクションにはアリス、オフコース、加山雄三、荒井由実、宇多田ヒカルなど数え切れないほどのアーティストがいます。洋楽セクションにはザ・ベンチャーズ、ザ・ビートルズ、クイーン、ピンクフロイドなど、ほんとに凄いですね。しかしその後は経営資本が撤退等の紆余曲折があり、現在はユニバーサルミュージックの中でレーベルだけが残っている状況です。音楽業界に足を踏み入れてから半世紀近くになりますが、時代が変わったとはいえ、この状況を淋しく思うのは私だ

けではないでしょう。

さて、黄金時代トップの音楽出版社社長と、今でも伝説のEMI敏腕プロデューサーとのオファーなら飛び込むべし!と私は腹をくくりました。裏方経験があって心配だし曲も書けないけれど、どうにかなるだろう。泳げないかも知れないけど、美しい海なら飛び込んでみなければ絶対に後悔する。溺れそうになったら何かに捕まって逃げれば良い。私の決意を事務所の社長は快く受け入れてくれました。いえ、もしかしたらこんなチャンスが現れる日まで傍に居場所を作ってくれていたのかもしれないと今は思っています。なぜなら、働いていた音楽出版社の社長はヤマハ時代の担当ディレクターで、音楽の描く世界と同じ部分に心が響く者同士だったから。今は事務所で帳簿付けをしていますが、チャンスの時には「行ってらっしゃい」ということだったような気がします。ありがたい一言では、感謝の気持ちが全く足りません。そんな萩原社長に別れを告げて、いよいよEMIの石坂敬一プロデューサーにお世話になるんですが、私がこのオファーをお受けする最大の決定打はプロデューサーが石坂敬一さんだったからです。高校生の頃、ピンクフロイドの「狂気」というレコードがお気に入りですり擦り切れる

ジャズボーカリスト
星乃けい

officialwebsite

<https://www.hoshinokei.com>

ほど聴きました。このピンクフロイドは石坂さんの担当で、この邦題を付けたのも彼でした。レコード内容と邦題タイトルの付け方に、おっ!! と唸りが出るほど痺れていたもので、このセンスの彼が私を選んでくれたことに感無量でした。彼が居なければ再デビューはしませんでした。洋楽セクションでビートルズやクイーンを世に出した事で有名な石坂さんですが、次に彼が目指したのは、EMIの中に自分のレーベルを持って邦楽ヒットを出す事でした。私はそのために選んでもらったアーティストだったのです。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される